

12・20JAL本社に大結集!



2024年12月20日本社大包围行動

支える会

発行責任者
柚木康子

大田区羽田3-3-15
デラモタワー202
TEL.03 (6423) 7878

メール
sasaerukai@lemon.plala.or.jp

12・20 JAL本社大 包围行動に大結集し ました!

2024年12月20日18時半
JAL本社大包围行動が行
われました。

昨年引き続き北は北海道
から南は福岡まで多くの支援
者の大結集で、150以上の
幟が本社前に林立しました。

開始前にはうたごえの仲間
と松平さんのトランプペットの
演奏が響きました。まず主催
者のJAL争議の早期全面解
決をめざす実行委員会を代表
してかながわ連労会の宮垣さん
が「JALは不当労働行為の
デパート。これが国際線を飛ん
でいる航空会社のやることか。
もの言う労働者を追い出した
解雇争議を解決して、安全対
策に真剣にとりくむべき」と
JAL本社に迫りました。

《国会議員から2名の「挨拶」》
福田昭夫衆議院議員(立憲民
主党)「働くものを大事にし
ない会社はダメになる。国も
発展しない。JALも世界の
経済の流れに公益資本主義を
考えて、社長がリーダーシッ
プを発揮して、この問題を解

決してほしい。皆さんと共
に闘っていく。」

大椿ゆうこ参議院議員(社会
民主党)「JALの裁判は終
わったが、不当労働行為は終
わっていない。筋金入りの不
労働行為企業だ。鳥取社長、
15年目を迎える争議に決着を
つけ、不当労働行為体質と決
別しましょう。」

《各地から駆け付けてくださっ
た支援者からの連帯挨拶》

横田厚さん(不当解雇と闘
う日本航空労働者を支える
釧路・根室の会)「長くなっ
た闘いの中で、JAL争議
団の闘いは国労闘争団の闘
いに似てきた。政治の状況
も似てきている今の状況を
正しく捉え、全力を挙げて
いく時期だ。闘いを一層全
国化しよう」

高松義雄さん(空の安全と
JAL争議の全面解決を支
援する茨城の会)「JAL
争議の闘いは、解雇で非日
常になってしまった14年間
を一日も早く普通の暮らし
に戻すことだ。会社が闘い
をしかけているのだから闘
い抜く。」

鶴山章さん(不当解雇と闘
う日本航空労働者を支える
愛知の会)「今JRは効率化
や人員削減により輸送の安
全が脅かされている。事故
の原因は様々だが、背景要
因が大切。当事者の納得の
いく解決のために引き続き
支援していく。」

鈴木等さん(JAL不当解
雇撤回闘争支援東京連絡会)
「経験豊富な客室乗務員・
パイロットは安全を守るた
めに重要な役割を果たす大
切な財産である。JALは
安全を軽視している。納得
いく解決をめざす闘いに全
力で取り組む。」

望月吉春さん(JAL闘争
を支える静岡の会)「JAL
の仲間の首切りは日本航
空の無責任な経営の失敗を
社員に押し付けたこと。国
交省OBの無責任な需要予測
を元に作った赤字続きの静
岡空港の為に県民は無駄な
税金を払わされているのと
同じだ。どちらも許せない。」





頑張ろう。」
*福岡と山形米沢からも支援の方がご参加いただきました。ありがとうございます。

《JHUに加入した現役客室乗務員・渡辺佳子さんの訴え》

「物言う活動家の首をJALは切った。もの言えは首を斬り放り出す会社で、社員は安心して本音が言えない。現場労働者は炭鉱のカナリアであるべき。安心してカナリアが鳴ける職場にするためにも、全面解決を求めます。」

《争議団員からの訴え》

林 恵美さん (愛媛) 「四国ではナショナルセンターのの違いを超えて共に行動している。その思いは平和と

暮らしを守り不当な解雇は許さない、で一致している。鳥取社長には赤坂会長や植木さんができなかった解雇問題を解決してほしい。」

榎原正好さん (福岡) 「14年経過した今でもこの争議が継続していることは、会社、社員、利用者国民の為になっているとは思えない。今こそ正しい決断をしてください。」

近村一也乗員争議団長「多くのパイロットと客室乗務員を採用しながら一人の被解雇者を戻さないのは解雇の目的が物言う労働者の排除であることの証拠。労働者の権利と安全運航のために闘う」

鈴木圭子客乗争議団長「JALは不当労働行為を繰り返し闘う組合を無くそうとしてきたが、私達の闘いは弱まるばかりか強く大きくなっている。不当労働行為をなんとも思わないJALに私達の闘いで鉄槌をくださなければならぬ。これからも共に闘ってください。」

山口宏弥 JHU 委員長 「経



営破綻の原因は放漫経営にあった。多数の採用をしながら被解雇者を一人も戻さず、外国人パイロットの採用をすることは過去の事故への反省がない。石破議員 (現総理) が指摘した通り組合潰しであったことが明らかだ。」

都労委のあっせんは終了、審査が再開されます！

12月25日、東京都労働委員会 (都労委) において「優先雇用」事件に係る第6回あっせんが行われました。

本件は、解雇以降大量の採用をし、今後は大量の外国人パイロットの採用を予定しながら、組合員を誰一人として

審問終了の事件に対し、救済命令を求める団体署名にご協力を！！

先行2事件と国交省事件については救済命令を求める団体署名を開始しました。勝利命令を勝ち取るため、多くの署名を集める必要があります。皆さまのご協力をおねがいいたします。署名の要請文、署名用紙 (日本航空事件、国交省事件の2種類あり) はJHUのHPからダウンロードすることができます。 <https://jhu-wing.main.jp>

大量の署名用紙が必要な方は組合 (TEL080-4905-3383) までご連絡いただければ郵送するとのことです。

第一次集約は3月19日、その後毎月月末に集約です。

次回都労委日程 日本航空事件結審・調査3月21日10時～、国交省事件結審4月17日10時～

よろしくお願ひします！



優先雇用しないのは、不当労働行為意思が継続していると、JHUは2023年10月に都労委に救済申立てした事件です。最初の調査であっせんに移行、会社はあっせんに応じながらも、JHUの解決につながる具体的要求に対し、業務委託契約での解決に固執し続けたことから、あっせんは打ち切りとなりました。

これにより次回期日より審査に戻ることになります。すでに審問まで終了している先行2事件 (団交拒否 / 不誠実交渉事件、組合間差別事件) と国交省事件については、次回結審し、命令に向け手続きが進むこととなります。

優先雇用事件は次回組合から会社の答弁書に対する反論を提出します。

止まらないパイロットの過度な飲酒問題 現場の意見を聞き「納得と共感」が得られる再発防止策を

2024年12月1日、メルボルンでパイロットの過度な飲酒が原因で出発が遅れる事例が発生しました。この事例に対し、12月27日に国土交通省から業務改善勧告が出され、本年1月24日にJALから再発防止策が提出されました。

パイロットの飲酒問題では昨年4月22日、米国のダラスでの機長の過度な飲酒による不適切な行動で、5月27日に航空局から厳重注意を受けたばかりです。この9年間で振り返るとパイロットの飲酒問題などで、JALは2018年と2019年の2度にわたり事業改善命令を受けています。その後、コロナ禍の4年間はゼロであったものの、航空需要が回復するとパイロットの飲酒問題が再び発生しています。

業務改善勧告を受けた再発防止策は、「社内意識改革」「運航乗務員の管理強化」「検査体制および継続的な安全管理体制の再構築」「運航本部の組織改革」を挙げ、教育・指導の強化・徹底を謳っています。また、社外取締役を委員長とする検証委員会を設置するとしています。しかし、今回の再発防止策も、“なぜ過度な飲酒事案が続いているのか？”という根本問題への分析がありません。また、再発防止策の一つに、「ストレス低減や職場環境の改善」を掲げていますが、具体的な対策は一切ありません。更に、「飲酒傾向の運航乗務員の管理」は、パイロットの日常生活の監視に繋がるもので人権問題です。2012年から8年間、JAL社外取締役であった八田進二氏は、パイロットの飲酒問題と今回の再発防止策について、経済紙のインタビューで、「2019年とほぼ同じ内容」「管理ありき、規定ありきの弊害」と指摘しています。

JALは今回の事案で、いち早く運航本部外に所属する社員の意見を集約して公表しています。当然の結果として、運航乗務員への批判を主体とする内容となっています。外部から社内のセクショナリズムに対する批判がある中で、こうした手法を採れば職場の分断が助長され、安全の要である“チームワーク”作りに逆行することは明らかです。パイロットの飲酒問題については、国際標準を超える過酷なパイロットの労働実態や、精神面での負荷など、パイロットの意見集約から始めるべきです。

どのような再発防止策でも、現場に「納得と共感」がなければ実効性はありません。安全の基盤は“自由にモノが言える職場”にあります。再発防止にあたっては、労働組合からも率直な意見を聞くべきです。14年間も争議を解決しない経営姿勢では、職場からの信頼を得ることは出来ません。私たち組合員は30年に亘ってJALで乗務し、1970年代～80年代の連続事故を経験してきました。不幸な歴史を繰り返さないためにも、JALは現場が納得できる再発防止策を示すべきです。

2025年2月 JAL被解雇者労働組合 (JHU)

東京連絡会が初の宣伝

JAL 不当解雇撤回闘争支援東京連絡会（東京連絡会）は昨年11月26日、品川駅南口で初の統一宣伝行動を行いました。

毎月、独自の宣伝行動を行っている各団体に呼び掛け、品川駅宣伝に結集を呼び掛けて実現した行動です。

各地から沢山の方々に参加、品川駅南口のデッキには色とりどりの幟が立ち並びました。

各地の団体代表が、慌ただしく通行する皆さんに、「JALの解雇争議の実態と解決へのご支援」を訴えました。

この宣伝行動に先立ち11月24日には関東圏の支援団体代表が一同に会する会議が開催され、東京の各地域、



茨城、千葉、埼玉、神奈川から参加されました。会議では、争議の現状報告、各地域での取り組みの紹介に続き、今後の方針等について様々な角度から意見が交わられました。東京連絡会主催の第2回統一宣伝行動は3月25日（火）18時30分、品川駅南口で行われます。是非ご参加ください。



「勝利へのトランジットコンサート」を成功させる会主催の取り組みです。オンラインも含め集会参加には1,000円の協力券が必要です。支える会も実行委員会に参加しました。ぜひご参加を。

全国の旗開きに参加
しました!

争議団は、本年も全国の
労組、団体からお声掛けを
いただき、参加しました。
コロナで中止していましたが、
再開されたところもあり、
東京、新潟、群馬、埼玉、
神奈川、千葉、茨城、
大阪、京都、福岡に争議団
は出かけて行き、これまでの
御礼と引き続きの支援、
争議の状況を訴えました。
くじ引きなどの景品をJAL
物販から用意していただき
ました。参加者からの激励
のお言葉に争議団は更に
元気をいただきました。

《各地の取り組み》



1月14日 京都商店街宣伝/京都支える会



1月21日 名古屋宣伝/愛知の会



1月20日 浦和東口宣伝



1月19日 水戸駅前宣伝/茨城の会



1月28日 錦糸町北口宣伝



1月27日 横浜宣伝/かながわ連絡会



1月22日 蒲田西口宣伝/南部連絡会



1月29日 福岡宣伝



1月29日 松山宣伝/えひめ支える会



1月28日 マリオン前宣伝/JAL中部共闘



2月10日 高田馬場宣伝/GJ西部連絡会



2月9日 立川駅宣伝/JAL三多摩共闘



1月31日 西武練馬駅宣伝/練馬全労協